

生物介在療法学特論演習 (2単位)

担当者氏名 太田光明・浅野房世・川嶋舟・内山秀彦

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

動物介在療法に用いられる介在動物の特性に関して、特に馬を中心に、行動的・生理的側面から理解し、動物の選択を考えたより良い動物介在療法・活動プログラムの検討を行う。動物介在療法・活動において対象者、スタッフとの適切な関係性と活動の運営について検討する。あわせて、植物介在療法領域においては、実地体験のための立案および模擬体験を行って、課題抽出を行なう。患者へのアセスメント、療法の焦点化、プログラムの立案、実施、そして評価という一連の行為を検討する。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

動物の特性 動物の管理 リハビリテーション 特別支援教育
 理学療法 作業療法 動物介在教育

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	動物介在療法から見たウマの形態学的・行動学的・生理学的特性	動物介在療法に活用される動物について理解を深め、本領域で活用される必然性について理解し応用性について検討する	介在動物の人の心身への健康効果に意識を常に向けて動物を観察する目を養う。
2	乗馬と乗馬シミュレータにおける動作比較と検討	乗馬シミュレータを用い、特に馬の特性についての体験的に理解する。	対照群との比較から動物の刺激を体験的に理解する。
3	AAI 研究におけるテーマ設定・評価	動物から様々な刺激を定量化、対象者の評価から本領域における研究題材について検討する。	動物のもたらす効果の要因について考察する。
4	理学・作業療法と動物介在療法	動物介在療法の実践で用いられる理学療法および作業療法の手法について学ぶ	動物介在療法の中で用いられる様々な手法学ぶ。
5	障がい者とのコミュニケーション	様々な課題を抱える障がい者との適切なコンタクト方法について体験的に学ぶ。	対人接触および適切な意思疎通について理解する。
6	動物介在療法に関わるメディカルスタッフ	動物介在療法を行う際に調整を必要とするメディカルスタッフの専門領域を理解する。	メディカルスタッフ、運営スタッフとの適切な連携について学ぶ。
7	AAT・AAA プログラム作成	AAE プログラムを試作し、作成したプログラムの演習を行なう	教育カリキュラムに則したプログラムを考える
8	高齢者施設での介護	車いすの扱い	植物介在療法のありかた、プログラム、評価に一連を理解する
9	身体機能低下について	ベッドのトランスファー	
10	視覚障害について	福祉施設での事故につながる問題	
11	認知症のケアについて	認知症介護の注意点	
12	高齢者福祉施設での模擬実践	身体介護、見守りの高齢者への植物介在療法の実施に向けての模擬実践	
13	評価	プログラムの評価と効果	
14	課題抽出	プログラムの評価を通して、課題を抽出する	
15	総括		

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

特に指定しない。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

バイオセラピー学入門（講談社）ほか、授業の中で提示する

医療施設（精神、リハビリ、ホスピスなど）植物介在療法が可能な医療分野を想定し、概要を学んでおく

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート，作業課題への取り組み度および討論への参加度により評価する。

◆オフィスアワー

随時メール等でのアポイントメントの上、研究室で質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

AAT/AAA/AAE 実践に必要な事柄は何か、常に意識しながら学んで欲しい。
